

2025年大阪・関西万博
基本方針における
Beyond 5Gの位置づけについて

2021年3月1日

内閣官房

国際博覧会推進本部事務局

大阪・関西万博の概要について

1. テーマ・サブテーマ・コンセプト

テーマ : **いのち輝く未来社会のデザイン**
“Designing Future Society for Our Lives”
サブテーマ : **Saving Lives** (いのちを救う)
Empowering Lives (いのちに力を与える)
Connecting Lives (いのちをつなぐ)
コンセプト : **People’s Living Lab** (未来社会の実験場)

2. 基本事項

①開催場所
ゆめしま
夢洲 (大阪市臨海部)

②開催期間
2025年4月13日～10月13日
(184日間)

③来場者数(想定)
約2,820万人



名称

◆日本語 (正式) : 2025年日本国際博覧会
同 (略称) : 大阪・関西万博

◆英語 : EXPO2025, OSAKA, KANSAI, JAPAN

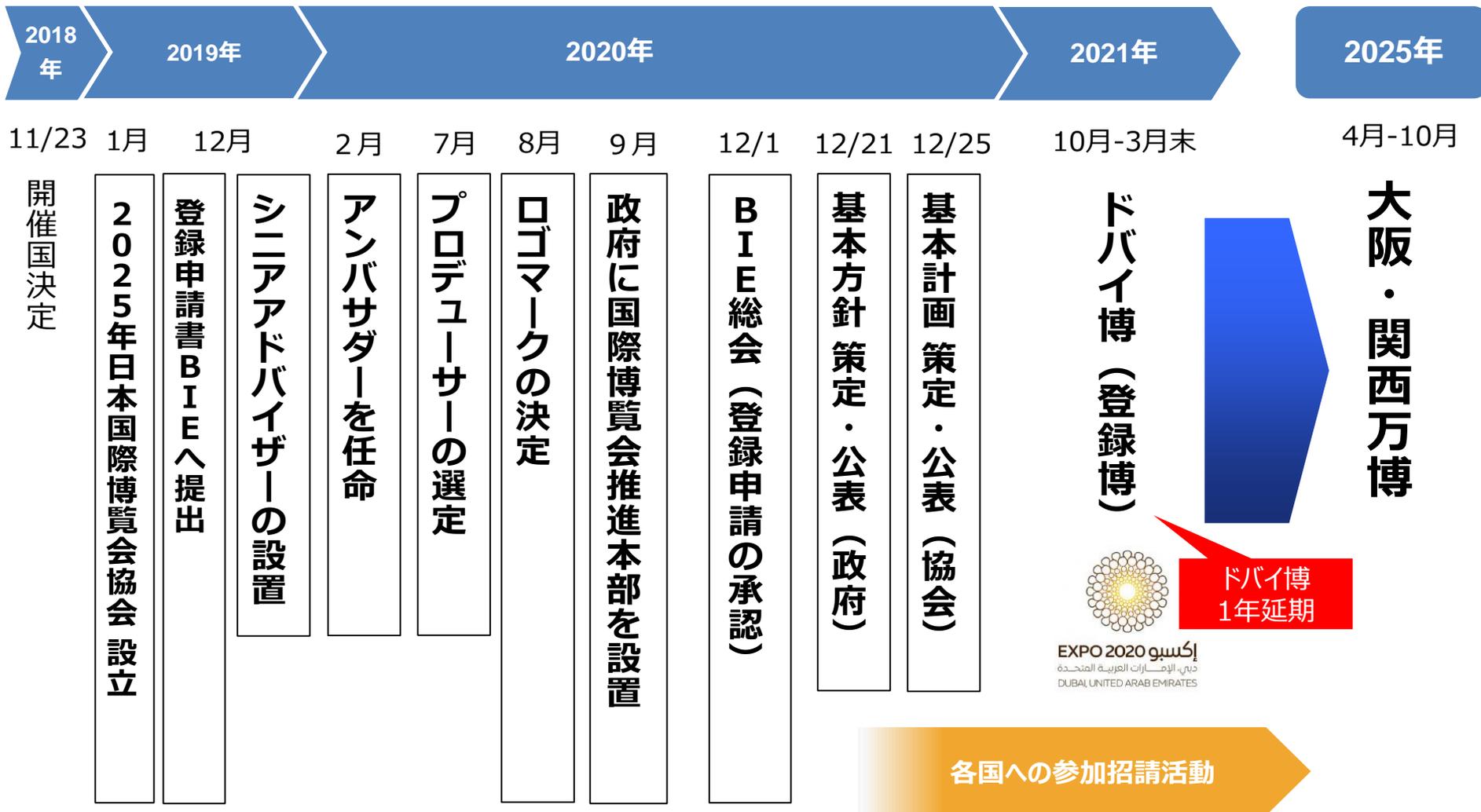
夢洲 (ゆめしま) 鳥瞰図

◆会場面積は、155ヘクタール。
(会場中心部にパビリオンエリアを設け、
南側には水面、西側には緑地を配置。)



提供 : 2025年日本国際博覧会協会

大阪・関西万博関連のスケジュール



基本方針（全体構成）

I. はじめに

- 国際博覧会開催の意義
- 日本で開催された国際博覧会の成果
- 大阪・関西万博の意義
- ポストコロナの経済・社会への転換
- 運営の成功に向けた体制
- 政府のこれまでの取組
- 基本方針の策定

II. 基本的な考え方

- 「いのち輝く未来社会のデザイン」の具体化
 - ・メインテーマ：いのち輝く未来社会のデザイン
 - ・サブテーマ：Saving Lives（いのちを救う）
Empowering Lives（いのちに力を与える）
Connecting Lives（いのちをつなぐ）
- 「未来社会の実験場」の整備
- カーボンニュートラルを目指す上での大阪・関西万博の形
- デジタル化等を駆使した「新たな万博の形」の提示
- SDGsの達成とその先の社会ビジョン（「SDGs+ beyond」）の構築
- 次世代に誇れる遺産の創出と継承・発展
- 大阪・関西万博を通じた日本の挑戦
- 大阪・関西万博を契機とした多様な文化、価値観の重なる創出
- 復興への後押し、日本全体の祭典
- 国際社会の中で輝く日本
- 政府一体となった取組と関係機関との密接な連携の推進
- 明確なガバナンスの確立と施策の効率的・効果的な実行

III. 大阪・関西万博の円滑な準備及び運営

- 各国・国際機関の参加・出展の確保
- セキュリティや安全安心の確保
- 来場者や運営関係者の安全・円滑な輸送
- 会場の周辺インフラの整備等
- ユニバーサルデザインの考えに基づいた整備
- 環境問題への対応
- ICTシステムの構築及び活用
- 外国人来訪者の受入れのための整備
- 大阪・関西万博の機運醸成
- その他

II. 基本的な考え方

メインテーマ：

いのち輝く未来社会のデザイン

サブテーマ：

Saving Lives
(いのちを救う)

Empowering Lives
(いのちに力を与える)

Connecting Lives
(いのちをつなぐ)

「未来社会の実験場」の整備

- ・大阪・関西万博を新たな技術やシステムを実証する場とする。

カーボンニュートラルを目指す上での大阪・関西万博の形

- ・ビヨンド・ゼロを可能とする日本の革新的な技術を通して世界に向けて脱炭素社会の在り方を示していく。

デジタル化等を駆使した「新たな国際博覧会の形」の提示

- ・最新の技術を活用した展示や世界中の人々の参加を可能とする方法等、デジタル技術の活用手法を追求する。

SDGsの達成とその先の社会ビジョンの構築

- ・2030年のSDGsの目標達成とその先(+beyond)に貢献するため、持続可能な社会・経済システムをどう構築するか、世界の人々とソリューションを共創していく。

次世代に誇れる遺産の創出と継承・発展

- ・スマートなまちづくり等の有形の遺産に加え、新たな技術の実証結果等の無形の遺産を創出する。

日本の挑戦

- ・日本が強みをもつ様々な技術の開発・革新を加速させ、課題解決の姿をショーケース化して世界に発信する。

多様な文化、価値観の重なりでの創出

- ・日本の伝統・文化を発信するとともに、国内外の多様な文化等が重なりあう文化創造の場とする。

復興への後押し 日本全体の祭典

- ・東日本大震災からの復興を成し遂げつつある姿を世界に発信する。

国際社会の中で輝く日本

- ・日本が先頭に立ち、大阪・関西万博を通じて、ポストコロナの経済社会への転換等を目指し、変革・変容を国際社会と共創していく。

オールジャパンでの取組を推進

- ・科学技術・イノベーション、宇宙、海洋、健康・医療、クールジャパンなどの分野も含め、施策を総動員
- ・明確なガバナンスを確立し、施策を効率的・効果的に実行

政府

博覧会協会

大阪府・大阪市、関西広域連合を中心とした
地方公共団体

経済界

学界

団体

個人

Ⅲ.大阪・関西万博の円滑な準備及び運営

- 参加招請活動、参加支援、円滑な出入国手続などを通じた各国・国際機関の参加・出展の確保
- テロ対策、サイバーセキュリティ対策、防災・減災対策、感染症対策、暑さ対策、食中毒予防など、セキュリティや安全安心の確保
- 鉄道・道路・空路・海路などの交通インフラの強化など、来場者や運営関係者の安全・円滑な輸送
- 会場へのアクセス向上、地域の安全性の向上など、会場の周辺インフラの整備等
- ハード・ソフト両面からユニバーサルデザインの考えに基づいた整備
- 再生可能エネルギーや水素の利用、分散型エネルギー資源の活用、省エネルギー・環境関連技術の活用、3R促進など、環境問題への対応
- フィジカル空間とサイバー空間の融合など、ICTシステムの構築及び活用
- CIQ体制（税関・出入国管理・検疫体制）の人的・物的強化、多言語対応の強化など、外国人来訪者の受入れのための整備
- 国際会議や教育機関等の場の活用、様々な主体による大阪・関西万博と軌を一にした関連イベントなど、あらゆる機会を通じた全国的な機運醸成
- 寄附金付記念葉書・切手の発行、記念自動車ナンバープレートの発行、開催可能な公営競技協賛レース等の実施。

(参考：基本方針(抜粋①))

Ⅱ 基本的な考え方

(2) 「未来社会の実験場」の整備

大阪・関西万博を、新たな技術やシステムを実証する場と位置付け、国内外の多様なプレイヤーによるイノベーションを促進しそれらを社会実装していく「People's Living Lab (未来社会の実験場)」とする。

(省略) さらに、2030年や2050年を念頭に国等で実施されている巨大実証プロジェクトに関しては、可能な限り、2025年段階での「現状と将来像」を会場内外で提示する。例えば、5Gを含めた情報通信インフラを会場に整備し、チケットティング、決済及びAIによる高度な多言語同時通訳等のサービスを実装する。加えて、2030年頃の導入を目途に開発が進められる、5Gの次の世代の無線通信システムであるBeyond 5Gの導入に向けて、「Beyond 5G ready ショーケース」として大規模な展示を行い、世界の人々が日本の最先端技術を体感できる機会を提供する。

(参考：基本方針(抜粋②))

Ⅱ 基本的な考え方

(4) デジタル化等を駆使した「新たな国際博覧会の形」の提示

近年、急速に進んでいるAIやIoT、ロボット、ビッグデータをはじめとするデジタル技術は、単なる技術革新にとどまらず、日本の経済・社会構造の在り方を変えつつあり、世界の大きな潮流になろうとしている。特に、新型コロナウイルス感染症を契機として、デジタル技術を積極的に活用した「ニューノーマル」が現出しつつあることを踏まえ、大阪・関西万博をショーケースとして、会場内外におけるデジタル化を展開する。具体的には、「未来社会の実験場」として会場内において最新のデジタル技術を活用した様々な展示や催事を行うとともに、世界中の人々がデジタル技術によって大阪・関西万博に参加することを可能とするなど、その多様な活用手法を追求していく。

(参考：基本方針（抜粋③）)

III. 大阪・関西万博の円滑な準備及び運営

(7) ICTシステムの構築及び活用

大阪・関西万博では、世界中の多くの人々が空間や時間を超えて参加者となり、多様で幅広い参加者間での共創を通じて個々人の創造性に変容をもたらす体験価値の提供を目指す。このため、ICTを最大限活用し、フィジカル空間（現実世界）とサイバー空間（ICTを用いて実現する仮想世界）とを融合させた取組を行うことで、提供する体験価値を向上させるとともに、参加者に質の高いユーザ体験（UX）を提供する来場者サービス、スマートな入場管理を進めるための情報基盤を整備する。また、Society5.0の実現に向けて、得られたデータの連携による新たな価値の提供や、大阪・関西万博における情報基盤の全体運用を通じて得られた知見が次世代に誇れる遺産となるよう、ICTシステムの構築と活用を進める。